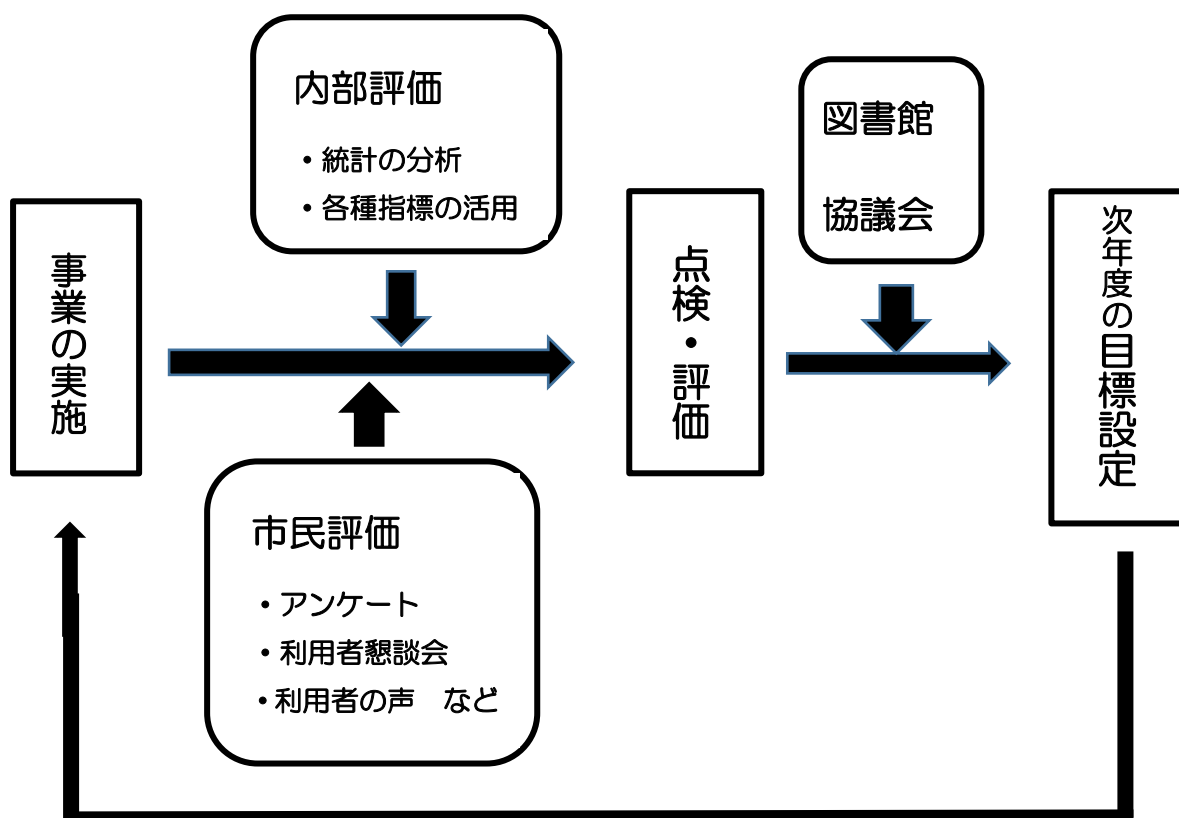


第4章 計画実行のための体制

計画を実行していくためには、サービス計画の進捗状況や成果を確認していくことが重要です。図書館内に、サービス計画担当を作り、一年ごとの進捗状況を確認します。そして、図書館協議会で報告を行い、次年度のサービスへつなげる体制を作ります。



1. 計画の進行管理

進捗状況を把握します。

評価・分析を行い、図書館運営方針や目的に照らし合わせ、次年度の目標を設定します。

2. 運営の状況の評価

図書館協議会に報告し、協議会は、報告された進捗状況と目標設定に対して提言を行います。

利用状況等の統計結果を分析し、各種指標等（文部科学省の「望ましい基準」等）を活用し、図書館運営の改善に活かします。

市民評価（アンケート調査等）によりニーズを把握します。

3. 計画の進行に関する情報の提供

目標設定、計画の進捗状況や成果は、「かまくら図書館だより」やホームページで一般に公開します。

第5章 中央図書館と地域館の中長期的な展望

本市では、図書館を含めて昭和30～40年代に建てられた公共施設の老朽化が進行しており、その維持管理や建物の更新に係る多額の費用を確保することが難しい状況であり、公共施設全体の最適化を図るため、平成27年3月に「鎌倉市公共施設再編計画」を策定しました。この中で、中央図書館は、拠点図書館としての機能充実を図るため、大規模修繕または建て替えを行うこと、地域館は他の地域公共施設とともに地域拠点校に統合することが記載されています。

また、市役所本庁舎については、この再編計画策定後再整備について検討を重ね、平成29年度末には「深沢地域整備事業用地」に移転することを明記した「鎌倉市公的不動産利活用方針」を策定しました。この方針において、中央図書館は鎌倉市役所跡地に移転し、市民サービスや相談のための窓口や生涯学習センターなどとともに再編され、市民が集う場所として活用していく方針になっています。

これらの計画や方針を踏まえ、中央図書館と地域館の中長期的な役割について検討します。

（1）中央図書館

ア 鎌倉市役所跡地への移転前

従来の機能に加え、次の機能を強化します。

- ・ 職員・非常勤職員への研修機能
- ・ 近代史資料の収集、整理、公開
- ・ 電子図書館機能（デジタルアーカイブ、国会図書館デジタル化配信資料の閲覧、データベース、デジタイズ図書、電子書籍）

イ 移転後

施設や設備の更新により、新たな機能を加えます。

- ・ 地域館へのサポートセンター機能
- ・ 学校との連携
- ・ 近代史資料の活用
- ・ ICタグ、Wi-fi、自動予約本受取機の導入・活用
- ・ 電子書籍の貸出

（2）地域館

ア 地域拠点校への統合前

既存の各行政センターの老朽化の状況に応じて建物を修繕し、建物の安全性を確保しながら、地域の居場所、身近な情報センターとしての機能を維持します。それに加えて、次の機能を追加します。

- ・ 各地域の特色ある資料の収集・保存・活用
 - （ア）腰越地域：広町、腰越漁港、江ノ電（交通）
 - （イ）深沢地域：学校連携、湘南モノレール、JR大船工場跡地
 - （ウ）大船地域：松竹、田園都市、大船駅
 - （エ）玉縄地域：玉縄城址、フラワーセンター

イ 統合後

- 現在行っている図書館サービス機能の維持
- 地域拠点校の学校図書室との連携
- 生涯学習施設等の他の統合施設との連携
- 各地域の特色ある資料の収集・保存・活用

おわりに

今回のサービス計画は、今後4年間の鎌倉市図書館の指針となります。

鎌倉市図書館は、これまでどおり、市民の「知る権利」を保障し、利用者の秘密を守り、長期的視野に立った資料の収集、整理、保存、提供を行います。さらに、社会の知的セーフティネットとなり、市民の居場所、人の集う場としての役割も必要です。それには、効率性だけではなく、市民、地域とつながり、人と人が触れ合うサービスの提供が求められます。

また、郷土に関するレファレンスや、子どもたちの読書支援などは、司書の専門性の継続や蓄積、学校・地域の関係者との連携が重要となります。そのためには、市民や地域とともに図書館を創りあげることができる職員の存在が不可欠です。これらのことは、一貫した図書館経営を継続していくことでしか実現できません。

今後、厳しい財政状況や施設の老朽化対策、公共施設再編など図書館を取り巻く状況の変化、新しい情報技術の活用など難しい課題への対応を求められます。この計画に沿って、市自らが責任を持ち、直接運営することで、「つながる ひろがる 100年図書館」の実現を目指します。